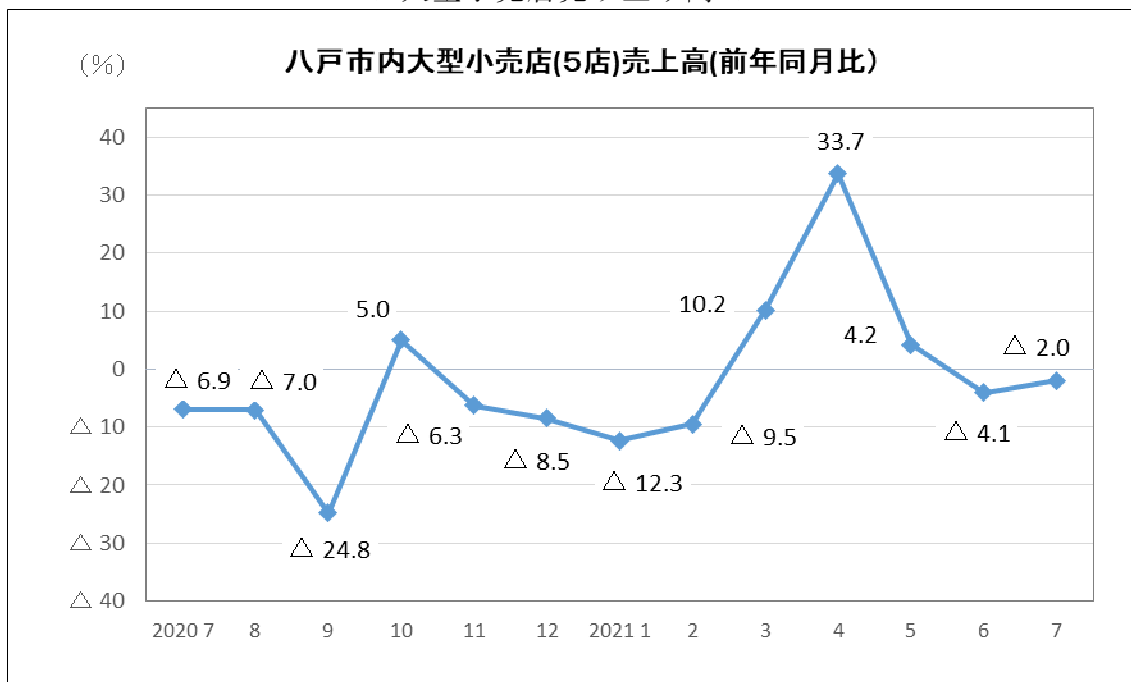


## 【個人消費：八戸地区】

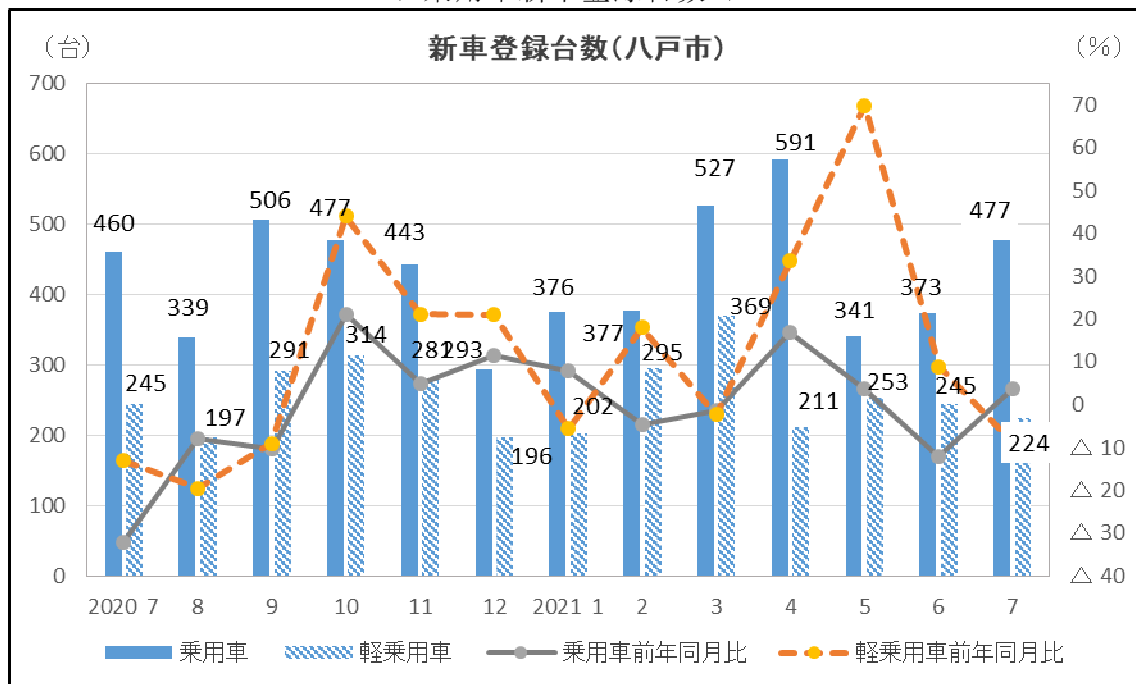
- ・八戸地区の個人消費は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全体として6月の回復傾向の兆しから一転し、低調に推移した。昨年5月の特別定額給付金の支給による5月から7月にかけての一時的な消費拡大と比較し、前年同月比の大幅な落ち込みはなかったが、消費の回復傾向は7月に入り衰えを見せた。市内の新型コロナウイルスの感染者はこれまで県内外の他地域と比較して相対的に少なかったが、7月に入り増加傾向を見せその影響が個人消費をはじめとする地域経済全体の低迷を招いている。高齢者への新型コロナワクチン接種は進捗しているが、64歳以下への接種は進んでおらず、個人消費の推進力とはなりえていない。ワクチンの個人接種・集団接種が開始されることで、消費マインドの回復が待たれる。
- ・婦人服は、7月の気温上昇が夏物商品の売り上げ増加に寄与した面も見られるが、反面、外出を控えることによる来客数減少の要因となった部分がみられた。店舗によっては、ダイレクトメール、イベントやセールなどの販促が売り上げにつながっている。
- ・靴は主にレディースを中心とした夏物のサンダルの売り上げが多かった。子供向けのブランド物のサンダルやスニーカーもよく出た。一方、メンズは全体的に動きが鈍い。キャンプの流行や外歩きをする人の増加を背景としたアウトドアシューズは一服感がある。
- ・大型家電量販店は、外出自粛によるテレビの売り上げなどが好調だった。前年同月比、一昨年同月比で、いずれも10%程度の売り上げ増となっている。
- ・時計・宝石類は、前月までの緩やかな回復基調が、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により売り上げは減速状態となった。その一方で、修理やリフォームは依然として堅調に推移している。金・プラチナ等の価格上昇により、貴金属の買い取りは堅調に推移している。
- ・家具類は、夏向けの商品（冷感素材の寝具等）を取り扱っている店舗では売り上げが好調だったが、それ以外のソファなどの家具類は低調。店舗によっては、住居新築等によるまとめ買いが見られた。
- ・市内大型小売店（5店）の売り上げは、前月を上回った。しかし、前年同月比で2.0%減となり、2カ月連続で前年同月比減となった。また、一昨年との比較では前月が6.5%減だったが、今日は8.8%減と、減少幅は若干大きくなった。

< 大型小売店売り上げ高 >



- ・新車登録台数は、前年同月比で普通乗用車が前年同月比 3.6%増の 202 台、小型乗用車は前月の減少から増加に転じ同じく 3.8%増の 275 台で、普通乗用車と小型乗用車を合わせた乗用車全体は前年同月比 3.7%増の 477 台となり 2 カ月ぶりに増加に転じた。
- ・軽乗用車は、前年同月比 8.6%減の 224 台と、前月の 245 台から減少に転じた。

< 乗用車新車登録台数 >

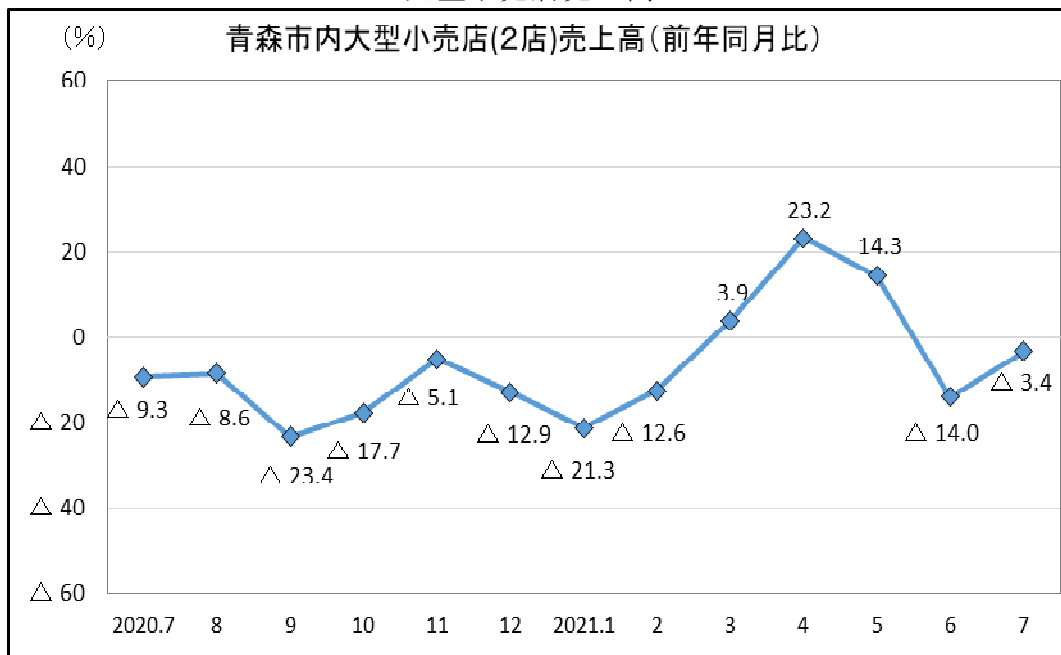


乗用車 477 台、前年同月比 3.7%増 (普通乗用車 202 台 3.6%増 小型乗用車 275 台 3.8%増)  
 軽乗用車 224 台 前年同月比 8.6%減

## 【個人消費：青森地区】

- ・7月は、中旬以降連日 30℃を越す真夏日の日が続き夏本番の暑さとなり、また梅雨明けが例年より 10 日以上も早く降水量が平年を大幅に下回る中、夏物セールは順調なスタートを切った。そうした中、青森市プレミアム商品券の取扱いが 7 月からスタートとなり、出だしの動きは良く使用率が高かった店舗も見受けられたが、月後半は衣料品店など多くの店舗ではその動きが少なくなった。商店街への客足は少しずつ戻りつつあるものの、新型コロナウイルス感染による影響から、8 月のねぶた祭の中止やお盆の帰省自粛により、今後も期待はできないと嘆くお店の声も聞こえる。
- ・婦人服は、夏物セールが始まり、気温の上昇から定番の T シャツやハーフパンツが良く動き、さらりと着られるロング丈のワンピースが人気となった。一方、前年に続きねぶた祭が中止となり、レンタル衣装の売上げがなくなる店舗がみられた。
- ・紳士服は、月前半はプレミアム商品券の利用率が高い店舗もみられ、クールビズ商品であるスラックスや半袖ワイシャツの動きは良かった。しかし、後半は動きが鈍りスーツは夏の成人式や就活の需要はなく、夏物フォーマルも売れ行きが悪かった。
- ・靴は、セール開始により低価格帯中心の動きから売上げが伸びず、紳士用ビジネスシューズは例年みられる就活需要がなく動きは鈍かった。一方、スニーカーは順調に推移しており、ミセスの購入が多くみられる店舗もあった。
- ・家具は、販促によりセミダブルベッドの動きが良かった店舗もみられ、三段ボックスは前年並みの売れ行きとなったが、主力のソファの動きは鈍かった。生活用品では気温の上昇がみられたものの夏物寝具類は低調な動きとなった他、敷物類も静かな動きに留まった。
- ・家電は、前年売れ行きの悪かったエアコンや、単価が上昇しているテレビが売上げを伸ばした他、携帯電話も順調な売れ行きが続いた。1 年を通して今の時期が一番伸びる冷蔵庫や洗濯機は、例年並みの売れ行きだった。
- ・大型小売店（2 店）は、7 月からのプレミアム商品券取扱い開始により、食品や化粧品等の売上が伸びたものの、中元セールが伸び悩んだ他、前年の特別定額給付金による特需からの反動もみられたことから、売上高は前年同月比 3.4%減とマイナス幅は縮小したものの 2 カ月連続で前年を下回り、一昨年対比では 12.4%減と 2 桁のマイナスと厳しい状況となっている。

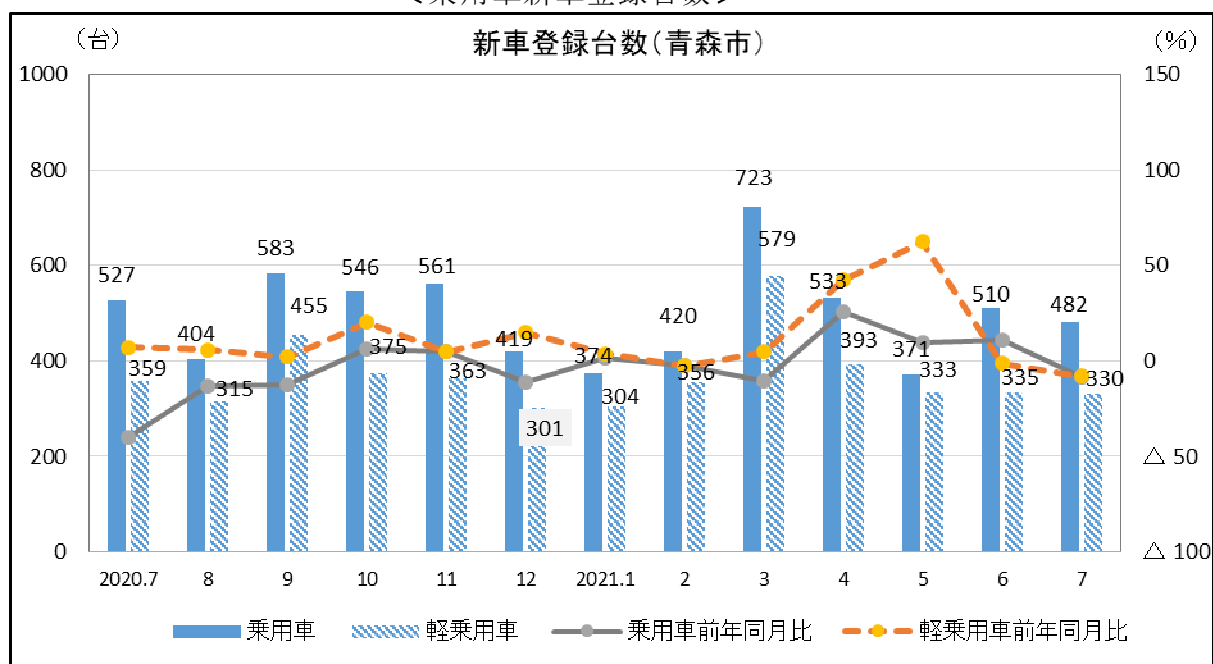
＜大型小売店売上高＞



- ・自動車は、普通乗用車が 1.9%減と 7 カ月ぶりに前年を下回った他、小型乗用車も 2 桁の減少

となりマイナスに転じたことから、全体では前年同月比 8.5%減と 4 カ月ぶりに前年を下回った。軽乗用車は同 8.1%減と、2 カ月連続で前年を下回った。

<乗用車新車登録台数>



乗用車 482 台、前年同月比 8.5%減。(普通車 1.9%減、小型車 14.9%減)  
 軽乗用車 330 台、前年同月比 8.1%減。